

令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	大河原町立大河原小学校	主な取組教科	算数科
研 究 主 題	新しい課題に対応できる力を高める児童 —対話的な学びを通して—	研究年次	1 / 3 年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
【校内研究】 算数科において、児童が主体的に問題に取り組み、人やもの、自己との対話を通して、深い学びにつなげられるようにするための指導の在り方を、実践を通して明らかにする。	【視点1】 導入段階で、問題場面の提示の仕方を工夫し、既習事項と関連させた学習課題を設定したことにより、児童が興味関心をもって学習に取り組むことができた。	事後検討会の際、研究授業のときの児童の発表や学習ノートへの記述などの学ぶ姿勢について協議し、児童の取り組む姿を基に検証した。
	【視点2】 集団解決の段階で、上位群と下位群の児童で3人組を作ったり、タブレットやホワイトボードを活用して互いの考えを出し合わせたりしたことで、仲間との対話を通して課題解決に向けて取り組むことができた。	事後検討会の際、研究授業のときの児童の発言や話し合いの様子に加え、学級全体で解決する場面での児童の取り組む姿を基に検証した。
【標準学力調査】 6月と12月に標準学力調査（東京書籍版）を行うことを通して、前学年及び現学年での学習内容の理解と定着を確かめ、以後の学習指導に役立てる。	【6月の結果より】 算数科においては、全国平均とほぼ同様の結果となった。どの学年においても、前学年までの学習内容の理解と定着の程度を確かめることができた。	校内の学力向上会議の際、各学年及び学級の結果から、児童がどのような問題や領域でつまづいているのかを確かめた。以後の学習指導でどのような取組をしていくのかを話し合った。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
【校内研究】 授業の中で対話を通して仲間との課題解決に取り組んでいるが、児童にとっての「深い学び」になっているかの検討が必要である。	校内研究において、「深い学び」の捉えを明確にするとともに、授業の中での「深い学び」の姿を想定しながら授業づくりに取り組んでいく。
【標準学力調査】 6月の結果から、評定3と評定1の割合がそれぞれ高くなっていることが分かり、学習内容の理解と定着において「二極化」が表れている。	学年・学級の児童の実態やつまづきを把握するために、一人一人の状況一覧表を作成するとともに、主体的に対話的な学びができるような授業づくりに取り組んでいく。